

令和 2 年 6 月 26 日現在

機関番号：37105

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03628

研究課題名（和文）家族と社会関係資本の相互作用が非認知的能力に与える影響：パネルデータの構築と利用

研究課題名（英文）Effects of family and social capital on non-cognitive skills

研究代表者

山村 英司 (Eiji, YAMAMURA)

西南学院大学・経済学部・教授

研究者番号：20368971

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、独自に質問票を作成し個人の小学生時代の状況などの過去の情報を得た。小学生時代に形成される対人能力や世界観が、成人後の主観的価値にどのように影響を与えたかについてさまざまな分析をおこなった。

例えば、小学生のころチームスポーツの経験がある人は、対人関係能力が高い上に、自由貿易を通じて得られる利益に肯定的な見解を持っている。小学1年生の頃に女性担任教師のもとで学んだ男子生徒は、成人すると企業の環境投資を重視するようになる。

小学生の頃に培った能力は、試験等によっては計測できないものがあり、それが現代社会を生きるうえで重要であることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果から、小学生時代のスポーツ経験、担任教師の性別などがその後の人生観や経済行動に大きく影響することが明らかになった。従来の教育研究では、幼児教育と学力の関係や社会生活の充実度などへの知見があった。本研究ではより具体的に、具体的な貿易や環境、コミュニティ形成などに関する経済政策と教育政策が密接に関連していることが示された。経済政策と教育政策を連携させ、長期的に持続発展可能な社会を作ることが望まれる。

研究成果の概要（英文）： This project is planned to originally and purposefully collect panel data. Through internet-surveys, we obtain various information of individual's experiences in one's childhood. Using the data, we analyze how respondents' childhood experiences determine their perceptions and world views.

For instance, we investigated how childhood education and experiences helped to form noncognitive skills and later, trade policy preferences. We found that (1) sporting experiences and informal education lead people to have positive subjective views about the role of group work, competition, reciprocity, and generalized trust and (2) positive views about the role of group work, competition, reciprocity, and trust leads people to prefer free trade.

We examine how female teachers in elementary school influence students' ESG stated preferences in their adulthood. Our major finding is that female teachers affect male but not female pupils' preferences for corporate responsibility later in life.

研究分野：行動経済学

キーワード：人的資本 社会関係資本 非認知能力

1. 研究開始当初の背景

教育や経験などを通じて形成される人的資本は社会的な成功の要因の一つと考えられる。また、人間の信頼関係、社会ネットワーク、社会参加などによって捉えられる**社会関係資本**も経済発展を促す役割があることが明らかにされてきた(e.g., Knack & Keefer. QJE 1997; Sabatini. Kyklos 2008)。このように、2010年以前の段階で海外では経済学分野において社会関係資本への注目が高まっていたが、日本では社会関係資本を厳密に実証分析研究がほとんど存在していなかった。そこで、研究代表者は社会関係資本が経済社会に与える影響を実証的に検証してきた。たとえば、人的資本よりも社会関係資本が産業発展の初期段階では企業の成長を高める役割を果たすが、ある程度産業発展が進むと社会関係資本の役割は大きく低下し、それに変わって人的資本の役割が重要になることを発見した(研究業績欄の3の研究)。この結果は社会関係資本と人的資本が代替的な関係にあることを示唆する。一方で、小学生や中学生の県レベルの集計データを使った研究では、社会関係資本が蓄積されている地域ほど長期不登校率が低下することや、学力テストの得点が高いことなどを発見した(研究業績欄の24および34の研究)。

人的資本は学力によって計測できる認知的能力ばかりではなく、忍耐強さなどに反映される非認知的能力が重要である。これらの能力が、子供のころの家庭環境によって高められることが知られている。とりわけ、非認知的な能力は小学校入学前の時期の過ごし方が決定的に重要であることがシカゴ大学の Heckman 教授などによって明らかにされた(Heckman et al. Journal of Public Economics 2010)。またこのような非認知的な能力や子供の社会に対する意識が、インフォーマルな教育によっても影響することが日本においても観察されることが、大阪大学の 大竹 教授などによって明らかにされた(Ito et al. RIETI DP 2014)。さらに研究代表者は、人間の価値観は、他の家族メンバーの価値観から影響を受けることを見出した(研究業績欄の44の研究)。しかしながら、これらの研究では**社会関係資本と家族関係の相互作用が非認知的能力や主観的価値に与える影響は分析されていない**。この点について、本研究は多角的で詳細な分析を行う。

研究を進めていく上で、国内外の個人レベルのデータを利用した研究により、申請者は下記のような予備的な研究結果を得ている。

- (a) 19世紀の教育水準が高い国ほど、官僚腐敗度は低い。その国民は自分の努力の重要性を認識し、忍耐力や責任感が強い傾向にある。
- (b) 近隣の子供の万引きを発見したときに、社会関係資本が大きな地域ほど、警察ではなく学校へ通報する確率が高い。
- (c) 私立小学校の卒業生は、公立小学校の卒業生よりも、忍耐力や我慢強さを重要と考える。
- (d) 社会関係資本が大きな地域ほど、学校給食費の不払い率が低い。
- (e) 父親、或は母親と同居していない生徒は両親と同居している生徒よりも、遅刻や欠席が多く、試験成績も悪い。

2 . 研究の目的

申請者は人間の能力をあらわす人的資本 (Human capital) が、人間の絆や信頼関係などを含む社会関係資本 (Social capital) によって高まることを見出した。本研究では、さらに社会関係資本と幼少期における家族関係の間の相互作用に着目しつつ、人的資本や主観的意識の形成過程を解明することが目的である。

具体的には、独自に個人レベルのパネルデータを構築し、親が育った環境 (家族関係、社会関係資本の大きさ) が子供の教育方針に与える影響を分析する。 子供の誕生が親の社会関係資本への投資や政策への選好に与える影響を分析する。

3 . 研究の方法

個人の家族構成の変化を調査するために、初回調査の対象者に対してその後も 1 年に 4 回の追跡調査を 3 年間行う。このようにして構築する独自パネルデータにより、家族構成の変化が社会関係資本投資や子供に対する教育方針にどのような変化をもたらすかを検証する。一方で、PISA などの国際的サーベイ調査に基づく大規模な個人レベルデータを用いることで、各国の歴史的・文化的な特徴を考慮しつつ、家族特性がいかにして人的資本形成に影響するかを分析する。独自データ収集による詳細な日本研究と、グローバルな視野から行う国際比較研究は相互補完的なものになるよう研究計画を立てる。最終的に、これらの研究から得る知見を統合し、グローバル化時代における人的資本の形成に果たす社会関係資本や家族の役割が解明される。

4 . 研究成果

本研究プロジェクトの研究成果として、査読付学術専門誌に次の論文 10 本を掲載した。なお、現在査読付学術雑誌に投稿中の論文が 3 本 (いずれも改訂要求が届いたために改訂中) がある。また、執筆中及び執筆予定の論文が 5 本程度あり、いずれも査読付学術専門誌に投稿予定である。

これらの研究から具体的な成果として、次のことが明らかになった。第一に、小学生の頃のチームスポーツ経験が、他者とのコミュニケーションなど対人関係構築に必要な能力を養うことが分かった。第二に、小学生時代の担任教師が女性であると、男性は企業の環境維持、社会貢献、透明性への投資を重視することが分かった。第三に子供の頃に両親が喫煙している場合、本人の成人後の喫煙率が上がり、健康状態も悪化することがわかった。以上のように子供時代の状況は、成人後の対人能力、世界観、健康に大きな影響を持つことが分かった。

今後の研究課題は、実験的な手法を用いることにより、子供時代に形成された特徴が、条件付けられた個人行動にどのような違いをもたらすかを検証することである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Yamamura, E., Tsutsui, Y.	4. 巻 27(1)
2. 論文標題 Trade policy preference, childhood sporting experience, and informal school curriculum: an examination of views of the TPP from the	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Review of International Economics	6. 最初と最後の頁 61-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi.org/10.1111/roie.12356	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yamamura, E	4. 巻 40(2)
2. 論文標題 Transmission mechanism and gender identity: Smoking behavior between parents and their children of the same gender	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Economics Bulletin	6. 最初と最後の頁 1667-1674
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yamamura, E., Managi, S., Tsutsui, Y.	4. 巻 54
2. 論文標題 Male pupils taught by female homeroom teachers show a higher preference for Corporate Social Responsibility in adulthood	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Japanese and International Economies.	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 山村英司
2. 発表標題 Male pupils taught by female homeroom teachers show higher preference for Corporate Social Responsibility in adulthood
3. 学会等名 日本経済学会秋季大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	筒井 義郎 (Tsutusi Yoshiro) (50163845)	甲南大学・経済学部・特任教授 (34506)	
研究 分担者	浦川 邦夫 (Urakawa Kunio) (90452482)	九州大学・経済学研究院・准教授 (17102)	